

OB通信

# 鳳 羽

復刊第8号

= 2011年8月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

# 目次

はじめに	2
本部・支部連絡先	3
総会案内文	4
創部 50 周年記念事業	6

## 第 1 章 OB 会員の皆様へ

1 お知らせ	7
2 2009 年会計報告	7
3 OB 会費納入について	8
4 入会、脱会について	8

## 第 2 章 会員近況・活動報告

1 東京支部～棒ノ折山（969m）登山～	9
2 関西支部会員近況	10
3 山口支部 (1)近況報告	11
(2)支部交流会記録	12
4 S50年卒 近況報告	15

## 第 3 章 現役活動報告

1 執行部活動報告(本学)	17
2 執行部活動報告(工学部)	18
3 春合宿結果報告	18
4 夏合宿紹介	20
5 アフター紹介	20

## 第 4 章 その他

1 Y.U.W.V.ホームページ	21
2 編集後記	21

## はじめに

OB会 会長 山本 充二

年明けの霧島連山新燃岳の噴火に始まり、日本沈没、そんなSFを想起させられる3月の東日本大震災、そして原発事故、それに追い追いつちをかけるかのような7月の記録的豪雨、今年はまさに厄災の年です。被災地、被災者の惨状を思うにつけ心が痛み、希望の持てる日常生活の一日も早い回復、復興を願わずにはられません。

自然災害の罹災はないものの、いわゆる中高年の危機と向かい合っておられるOB会員も多数おられるものと思います。新聞でプロ野球の松井秀樹選手の言葉が紹介されていました。「コントロールできない過去よりも、変えていける未来にかける」。人生まだまだこれから、と自分にも言い聞かせております。

さて、山大ワンダーフォーゲル部は、これまでお知らせしたように、近年、部員数が減少して全部員数が10名を下回り、部の存続が危ぶまれ、特に工学部部員は院生1名のみで廃部寸前の状況でありましたが、今春の新入部員は16名、うち工学部生10名で、なんとか廃部の危機を脱しました。現役部員が一丸となって新入部員獲得に奔走努力しこの危機的状況を克服してくれました。折しも今年がワンダーフォーゲル部発足50周年を迎える記念すべき年です。これを機に部の発展存続を大いに期待するものであり、OB会としても最大限支援していきたいと思っています。

ワンダーフォーゲル部創部50周年を記念して、今年総会引き受けの山口支部では、古谷真之助（52年経卒）を委員長とする実行委員会を組織し、総会時の企画展などの催しをはじめ、ワンゲル部への記念装備品の贈呈、記念誌「歩きの記 50周年記念特別号」の来年夏発刊など記念事業の企画検討を行っております。記念誌の発刊等については総会で改めて会員の皆様に説明し原稿等の協力を依頼することとしています。

この記念すべき総会祝賀会・交流会は別紙案内のとおり11月5・6日に秋吉台で行います。草紅葉にススキの穂が眩しく揺れる秋のカルスト台地の風情も是非味わってください。折角の機会ですからご家族の皆様もお誘いの上是非ご参加いただきますよう、お待ちしております。

## == 本部・支部連絡先 ==

### (本部)

OB会会長

山本 充二  
(経・47卒)

OB会副会長

田村 伊正  
(工・53卒)

OB会事務局長

菊池 武臣

### 東京支部

支部長 城戸 賢嗣 (経・49卒)

事務局長 宮原 龍作 (経・50卒)

### 関西支部

支部長 池田 純 (工・51卒)

### 山口支部

支部長 池富士 清 (農・47卒)

### 九州支部

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経・39卒)

支部長 武富 敏夫 (経・45卒)

事務局長 龍 純二 (文理・50卒)

## 平成 23 年度鳳翔会総会・YUWV 創部 50 周年記念祝賀会のご案内

鳳翔会（YUWVOB 会） 会長 山本 充二

山口大学ワンダーフォーゲル部 主将 馬屋原範聡

拝啓 山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会員の皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度総会は山口支部の受け持ちで、下記要領にて開催いたします。特に今年は創部 50 年の節目に当たる総会となりますので、是非多くの方にご家族ともどもお気軽に参加いただければと存じます。また、50 周年特別事業として、「あるきの記 50 周年特別号」と題する記念誌の発行を計画しておりまして、総会当日、その概要につきましてもご説明させていただきますが、その折には古い写真やとっておきの話題などを是非よろしくお願い致します。

なお、今年久々に 16 名の新入部員を迎えることができたことを申し添えます。秋晴れの秋吉台で多くの皆さんと再会できることを楽しみにしております。

敬具

### 記

1. 日時 2011 年 11 月 5～6 日(土日)

2. 場所 秋吉台「秋芳ロイヤルホテル秋芳館」(0837-62-0311)

### 3. スケジュール

11 月 5 日 1300 フリー参加①「龍護峰トレッキング」 約 2 時間  
フリー参加②「秋吉台散策と科学館見学」約 2 時間弱  
1500 受付開始  
(ホテルチェックイン時間は 15 時より)  
(大浴場は 24 時間入浴可能ですので、適宜ご利用下さい)  
1630 総会・祝賀会(式典・記念イベント)開始  
1830 宴会開始  
2100 宴会終了 同ホテル内にて二次会  
11 月 6 日 0800 記念撮影後解散  
08:30 フリー参加③「龍護峰トレッキング」 約 2 時間  
フリー参加④「秋吉台散策と科学館見学」約 2 時間弱

4. 参加費 15,000 円/人

5. 申込期限 9 月 10 日必着でお願い致します。

6. 申込方法 同封の葉書にてお申込下さい。選択項目はすべてご記入をお願い致します。

7. 問合せ 本件にかかわるお問合せは下記宛お願い致します。

創部 50 周年記念祝賀会実行委員長 52 年経済卒 古谷眞之助

8. 会場へのアクセスのご案内 (2011/8/10 時点情報による)

#### ・ 自家用車で来られる方

山陽自動車道美祢インターないしは美祢東インターより 15 分

ホテルは秋吉台展望台の手前にあります

・ 新幹線で来られる方

下記のように送迎バスを利用されるか、新山口駅より防長バスをご利用下さい  
送迎バス 「秋芳館」の送迎バスが2便出ます

11月5日	新山口駅バスターミナル発 (新幹線口)	①12:00 発 秋芳館行
		②15:15 発 秋芳館行
11月6日	秋芳館発	③08:30 発 新山口駅行
		④12:00 発 新山口駅行

送迎バスの新山口駅→秋芳館の所要時間は、約45分です。

・ 山口宇部空港経由で来られる方

下記2便のどちらかでおいでになり、空港バスにて新山口に移動後、送迎バス①か下記防長バスをご利用ください

日本航空	0730 羽田発	0910 山口宇部着	
	0925 山口宇部発	1000 新山口駅着	(バス便 870円)
全日空	0915 羽田発	1055 山口宇部着	
	1110 山口宇部発	1145 新山口駅着	(バス便 870円)

・ 新山口駅→秋芳洞 (防長バス 1140円)

なお、秋芳洞バスターミナル～秋芳館はホテル送迎あり

(各自ホテルへ電話連絡して下さい 08375-62-0311)

1000 新山口発	1043 秋芳洞バスターミナル着
1155 新山口発	1238 秋芳洞バスターミナル着
1250 新山口発	1333 秋芳洞バスターミナル着
1430 新山口発	1513 秋芳洞バスターミナル着
1540 新山口発	1623 秋芳洞バスターミナル着



(龍護峰から秋吉台全景)

以上

# YUWV 創部 50 周年記念事業について

掲題については、下記メンバーにて現時点で以下のことを実施する計画であります。

## A 事業内容

1. 記念式典
    - ・ 来賓祝辞
    - ・ OB 会よりワンダーフォーゲル部へ装備の贈呈
  2. 記念卓話
    - ・ 本部、工学部、農学部先輩より創生期のワンゲルについてのご講演
  3. 企画展
    - ・ パネル展示「現在の東鳳翺山」、「現在の部室(BOX)、トレーニング状況」など
    - ・ 現在の装備品展示
  4. 龍護峰トレッキング、秋吉台散策
    - ・ 別紙、ご案内ご参照
  5. 記念誌発行
    - ・ 「あるきの記 50 周年記念特別号」
    - ・ 皆さんの自由応募記事、指名して書いていただく記事、活動写真、イラスト等
    - ・ 50 年史作成 編集部
    - ・ 各支部情報 各支部長
    - ・ 最新名簿
- ※ 発刊は 2012 年 7 月、発送は 8 月を予定  
※ 予算 60 万円、300 部印刷、正会員には無料配布、非会員には希望により実費配布

## B 50 周年実行委員会

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| ・ 統括     | 山本 充二(72 経 鳳翺会会長)                 |
| ・ 実行委員長  | 古谷真之助(77 経)                       |
| ・ 副実行委員長 | 八谷 孝徳(79 文)、三國 彰(80 工)            |
| ・ 情宣・ホテル | 池富士 清(72 農 山口支部長)、坂田信一(82 工)      |
| ・ 総会     | 田村 伊正(78 工 鳳翺会副会長)                |
| ・ 受付     | 西村 朋子(09 経)、菊池武臣(現役 4 回生 OB 会事務局) |
| ・ 会計     | 齊藤 昌彦(85 農)、原 秀樹(94 経)            |
| ・ 宴会     | 八谷 孝徳(79 文)、新川美智子(81 教)           |
| ・ トレッキング | 三國 彰(80 工)、田原 宏(82 工)、古谷恵子(77 文)  |
| ・ 記録     | 浜野 宏(79 理)、坂田信一(82 工)             |
| ・ 記念誌編集部 | 古谷真之助、池富士清、田村伊正、坂田信一、古谷恵子         |
- どうぞ、よろしくお願い致します。

以上

# 第1章

## OB 会員の皆様へ

### 1 お知らせ

会費未納の場合は自然脱会となっております。会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。  
納入状況につきましては、2012年が未納の方と、2011年まで納入の方のみ、振込みをお願いする紙を同封しております。

### 2 2010 年会計報告

(Web 版省略)

### 3 OB 会費納入について

2011 年分 OB 会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいますようお願い申し上げます。なお、2010 年分 OB 会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号 01530-0-16050

加入者名 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2000 円

夫婦会員年会費 3000 円

会費納入は上記の倍数でお支払い下さいますようお願い申し上げます。

### 4 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

事務局より

## 第2章

### 会員近況・活動報告

#### 1 東京支部～棒ノ折山（969m）登山～

（東京支部 S.53 年卒 秋山高弘）

3月の東北大震災の後、自粛ムードも漂う中でしたが、こんな時こそ「普段通り」を心がけようと、東京支部では予定通り5月山行を実施しました。

棒ノ折山（ぼうのおれやま）は奥多摩の東京都と埼玉県の県境にある山で、山頂は広く展望の良い山です。5月7日（土）当日は17名が参加し、和気あいあいと、山行、温泉、そして打ち上げを楽しみました。

参加者（敬称略）＜17名＞

恵谷、乙咲、城戸、木村夫妻、佐々木夫妻、銭広、高田、高津（懇親会のみ参加）、原、真島、松永、三浦、宮原、村上、秋山

行程

9:22 青梅線川井駅集合…（バス）9:50 清東橋バス停登山口…11:27 棒ノ折山頂到着  
11:57 山頂出発…13:55 さわらびの湯着…15:50 西武飯能駅着…打ち上げ後解散

行動記録

9:50 登山口を出発、しばらく沢沿いの車道をのぼり橋を渡り山道に取りつく。植林された杉林の中を流れる小さな沢沿いの道だ。しばらくするとわさび畑が現れる。約20分で沢を詰め、ここからは山頂まで急登が続く。途中休憩を入れながら歩幅の合わない丸太の階段道をひたすら登る。約一時間登ったところで、急に樹林帯が開け山頂に到着。山頂は広く特に東側の眺望が良い。大持山（1294m）、武甲山（1295m）が展望できた。

帰りのバスの時間を考え、少しあわただしい昼食タイムの後、下山開始。帰りはゴンジリ峠までまたもや歩幅の合わない丸太階段道を下る。峠から東に向かい岩茸石から沢沿いに下る道をとる。降り始めてすぐに沢の源流部に出るが、これがこれから下る白谷沢だ。途中、白孔雀ノ滝、藤懸ノ滝を覗き込むようにして下る。途中渡沢地点もある。急坂の下りで少し濡れており滑りやすい道だ。怪我をせぬよう慎重に下る。いつの間にか道は沢から離れ林の中へと入り、そして突然有間ダム湖畔の車道に飛び出た。ダムの上を通り湖畔の車道をのんびり歩く。やがてさわらびの湯の広い駐車場が現れた。ゆっくり汗を流すも、打ち上げまでビールはお預けだ。

15時のバスに乗り、約50分かけて西武鉄道 飯能駅に到着した。登山者で満員でずっと立ちっぱなしだった。宮原事務局長の根回しよろしく、特別に一時間開店を早めてもらった居酒屋で打ち上げ。おいしいビールと料理に大いに話が弾んだ。

終わり

## 2 関西支部会員近況

関西支部 上田功

S48 (1973) 年 3 月卒部

昨年 4 月、東京から神戸へ再び単身赴任し、阪急電鉄・芦屋川駅近くの瀟洒な 1DK に暮らしています。芦屋川沿いに上流へ 30 分も歩けば、有名な高座の滝、ロックガーデンの取り付きに至るといふ皆さん垂涎のロケーションです。

月に一度は、芦屋～ロックガーデン～六甲山～有馬温泉の往路約 5H のコースを途中のルートを変えながら足馴らしを兼ねて歩くよう努めており、有馬の湯で汗を流した後、復路は芦有バスで芦屋へ戻って来ています。

遠くの山域への山行については、以前 OB 会総会で披露させて頂いた通り、H14 (2002) 年 4 月、東京支部の筑波山登山に参加した際に、若い時分に「深田百名山病」に罹患しかけていたことを 25 年振りに思い出したのがそもそものきっかけでした。当初は体力面や仕事面でなかなか実行出来ませんでした。この年 7 月の夏山開き当日の谷川岳に始まり、毎年 5 月から 10 月の間に百名山を中心に、こちらにも出来れば月に一度は出かけることを心がけてきました。

三冊目に増えた山行記録ノートによると、百名山に限れば、今年 5 月の恵那山、6 月の利尻岳の 2 座を合わせて、この 10 年間で丁度 60 座（東京から 21 座、神戸から 12 座、東京から 16 座、神戸から 11 座）に登っています。これに学生時代と社会人初期の分を加えると、登頂した百名山は計 91 座に達しました。

現在の心境としては、向後二ヶ年程の仕事面での現役の内に残り 9 座に登り切る一方で、その間にも又その後は例えば北穂高小屋に連泊して中の一日を日長にデッキで過ごすといったような山行を楽しんでいきたいと思っています。つまり、耳順の年齢を経たこれからだからこそ、ここでは山は大自然と同義でしょうが、山に向かい山に抱かれることで、いつまでも「サントマイト イ サントボディ」を大切にしたい、そのようにありたいと願っている次第です。

最後に、小生の山行での楽しみの 1 つを皆さんにご紹介します。毎度当たりという訳には参りませんが、それは出かけた山で美味しい山の水に出会いそれを飲むことです。最近 10 年間でのお勧めの名水は時系列順に以下の通りです。

利尻岳・甘露泉／羅臼岳・岩清水／八ヶ岳・本沢温泉の水場／  
越後駒ヶ岳・駒ノ小屋の水場／岩手山・八合目避難小屋の水場／  
農鳥岳・農鳥小屋の水場／磐梯山・弘法清水／  
悪沢岳・千枚尾根清水平の水場／荒川岳・荒川小屋の水場／  
剣山・御神水／空木岳・木曾殿山荘の義仲の力水／  
鳳凰三山・南御室小屋の水場／苗場山・雷清水 計 13 ヶ所

出かける機会があれば、是非ご賞味下さい！

H23 (2011) 年 7 月 芦屋にて

### 3 山口支部 (1)近況報告

総会実行委員長 古谷眞之助 (77 経)

最近の山口支部の動静は、

- ‘10.11.17. 支部役員会開催
- ‘10.12.3 支部交流会開催
- ‘11.1.15 追コン出席 OB19 名
- ‘11.4.23 第1回総会実行委員会
- ‘11.4 新入部員 16 名!
- ‘11.5.21-22 支部交流会 秋吉台にて
- ‘11.7.22 第2回総会実行委員会
- ’11.8.10 OB 会報発送作業

となっています。

5月21、22日の両日、秋吉台家族旅行村で支部交流会を開催しました。今回の交流会は、今年秋に開催される YUWV 創部 50 周年記念総会の事前調査の意味もありました。参加いただいたのは 16 名で、まずは会場となる秋芳館の部屋と総会会場のチェック、そしてホテル側担当者との簡単な打ち合わせを行ないました。ホテルの設備は十分で、秋吉台の眺めも良く、ゆったり寛いでいただけるとの感触を持ちました。またトレッキングコースも、登り下り、それぞれ約 1 時間のゆったりしたコースで、子供さんでも問題ありません。どうぞ、奮ってご参加下さい。



この秋、YUWV は 50 周年、半世紀の誕生日となります。この通信をお読みいただいた皆様、是非、ご自分だけでなく、ご家族、そして昔の仲間にも声をかけていただいて、50 周年を盛大にお祝いしましょう。実行委員会では、当日の参加目標人数は最低でも 100 名としています。そして、これを機に OB 会員数を 200 名の大台に乗せることも目標としていますので、会員になっておられない方にも確実に声掛けをしていただければと思っています。また、総会までには是非アルバムを広げてみて下さい。傑作写真、貴重な写真があれば、スキャンして送っていただければ幸いです。写真送付先 (shin-cas@c-able.ne.jp)それが無理なら、現物をお持ちいただいても結構です。その写真は間違いなく 50 周年の記念誌作成の重要な資料になるはずですので、どうぞよろしくお願い致します。

話は変わりますが、上の写真は、昨年の 10 月 17 日に、そう、懐かしい東鳳山を西側肩から撮ったものです。綺麗に草刈がしてありました。最近、山口でも高齢者の登山ブームらしく、毎日登っている方も相当数おられるようで、この方たちを含むボランティアによる作業のようです。私自身久しぶりに登ったのですが、山頂付近の木々はだいぶ大きくなっています。

総会当日には、ニツ堂、坂堂経由東鳳山の最新の模様をお伝えするパネル展示を行なう予定ですので、どうぞご期待下さい。

皆様のお越しをお待ちしています。秋の秋吉台でお会いしましょう。

## (2) 鳳翔会山口支部交流会記録

### ーひさしぶりだねワングル！ 総会にむけてのプレ合宿ー

2011 (H23) 年 5 月 21～22 日 坂田信一 (S57 卒)

平成 23 年 11 月 5～6 日に山口の秋吉台で行われる「鳳翔会」総会に向けて、山口支部では、プレ合宿を 5 月 22～22 日に同じ秋吉台で行いました。その時の模様について報告します。

5 月 22 日、10:30 小郡のスーパーマーケット「アルク」にて三国さん (S55) とエッセンの買出し。購入品のリストは池富士さん (S47) が事前に考えてくれましたが、14 人分の食料の買出しは大作業でした。学生時代の夏合宿前に道場門前の「ダイエー」にて買出しをしたことを思い出しながら作業をしました。当時、肉は豚肉で安いものを買えばよかったですのですが、今回は安い肉を買うと不評となりそうです。どのくらいの肉をかうの？と思いながら悩んでいるうちに時間がなくなってきました。そこで、三国さんは野菜、私は肉に分かれて買い物をすることにしました。野菜は少々はずしてもクリームは出そうにないけど、肉は量と質を問われる作業で、大変な方を担当させられたと思いながら、買い物を済ませました。ちなみに、チキンは少し苦手なので、購入リストの牛肉、豚肉、鶏肉の比率は適切に変えさせていただきました。

11 時 30 分、香川県から参加してくれた濱野さん (S54) と新山口駅にて合流。遠路よりよく来てくれました。ありがとうございます。

12 時 30 分、総会会場の秋芳ロイヤルホテル秋芳館駐車場に一番に到着。駐車場が思ったよりも狭くこれで足りるのかなと感じました。濱野さん、八谷さん (S54)、西村さん (H21) と、秋吉台の展望台に行って秋吉台を眺めて、ホテルに戻ると、ほぼ全員がホテルのロビーに集合しておりました。ロビーで池富士支部長からの挨拶を聞いた後、ホテルの総会会場、宴会場、客室見学を行いました。秋芳館は 3 階立てのホテルで、ワングルは 1F の総会、宴会会場と 2F の客室を中心に借りる予定としてあります。2F は 5 人くらい泊まれる部屋が 19 室程度ありました。「ワングルがとまって周囲に迷惑をかけないためには、2F を全部、貸し切る必要がある、現役は廊下に寝ても良い、必要なら寝袋さえあれば誰でも廊下で寝ることは可能」との大先輩の発言がありました。なるほどワングルなら可能ですね。参加者が 100 名くらいになれば 2F の貸し切りは達成できます。ホテルの見学をすませ、龍護峰トレッキングに出発、本当は、秋吉台にてトレッキングコース調査の予定だったのですが、「明日は雨が降る」との予報でしたので、明日のメインイベントの龍護峰トレッキングを初日に変更しました。

14 時 00 分、ここから、現役の菊池君が参加、現役の参加でこの会の充実感が、別の次元に変わることを感じました。秋吉台家族旅行村から龍護峰のトレッキングに出発。なんと、はじめの分岐で誰も方向が分からなくて、「あっちじゃないの？」とか話しながら進んで行きました。「まあ、命がかかっているわけでもないんで、どちらの方向でもいいんですけど、これって元ワングラーとしていいのかな？」と感じつつ、ゆっくりと高度



を上げていきました。参加者の年齢が広がっていてペースはゆっくりです。我々にはぴったりのペースかもしれません。楽しく話しながら、登って行けます。コースタイムは通常の 1.5 倍。現役時代に、コースタイムはガイドブックの半分くらいと感じたことが懐かしく思いました。龍護峰への登りは、森

を抜けると草原になり、カルスト台地が目の前に広がり、なんとも言えぬ絶景を楽しみながら登ることが可能です。もし2日かけて登山をしてこの風景に出くわしたらものすごい感動が来るはずなのだけど、こんな簡単にこの風景に達してしまうことを喜ぶべきか？多少複雑な気持ちになるのは、贅沢な悩みでしょうか？



15時00分 龍護峰のピーク到着。このピークは見晴らしが良く、現役時代、練成等で登った山々が一望できます。ピークで何か口に入りたいなあと感じている時に、西村さんから飴を頂いて一息。ピークで記念撮影してのんびりしました。気持ちのいいトレッキングです。

15時10分 下山。 15時23分 おはち山通過。

15時50分 西の西山登山口。ここで私も含めてエッセン班はひと足先に家族旅行村に下山。残りは、西の西山にピストン。西の西山は秋吉台で一番眺めの良い場所とのことなので、総会のトレッキングの時には行ってみようと思っています。

16時15分 エッセン班は家族旅行村に到着。バーベキューハウスにて準備。

16時37分 西の西山ピストングループ到着。今日の朝に買い出した野菜、肉を出して、楽しく乾杯、量も充分あり、最後の焼きそばで満足。買出しが適切であったことで、一応、ほっとして終了。バーベキュー終了後、懐中電灯で道を照らして、ログハウスに移動。



20時頃 ログハウスにて宴会。ワングルの懐かしい話、現役の部員を増やす方法、まじめな総会に向けての話、そして、古谷家の歌唱指導がありました。この日、このグループでは若手に属する人は飲みすぎてダウン気味でした。

0時頃 宴会終了。古谷さんと奥さんはテントにて泊まるとのこと、テントサイトに移動。雨が降り始めていて、夜に戻ってくるのではないかと思ながら送り出しました。

5月22日、6時頃 起床。朝食。食パンにジャムとハチミツとハムとマヨネーズ、野菜ジュースで朝のエッセン。ワングルを彷彿とさせる朝食でした。



7時頃 雨のため本日のトレッキングは中止にして、秋吉台展望台の付近の若竹山まで散策。展望台に戻って解散となりました。

今回の交流会を通して、現役、そして20歳から70歳位のOB、OGが集まってわいわいやれる山口大学ワングラーフォーゲル部の受容力というのは大変な物だと感じました。通常のスポーツ競技とは異なる幅広い選択肢を対象とするワングルだからこそ、やれるのではないかと思った次第です。



(コースガイド：秋芳ロイヤルホテル、家族旅行村、龍護峰、若竹山など)

#### 4 九州支部～S50年卒 近況報告～

九州支部 S50年卒 前原 真由美

早いものですね、卒業してから36年がたちました。学生時代は、自分が60才になるなんて想像もできませんでした  
が…。

子育てや仕事が一段落したからか、4年前から同期で集まるようになりました。最初は博多での飲み会。学生時代そ  
のままに、夜中まで騒ぎました。その時に話が出たのが「皆でアルプスに行こう！」山行もトレーニングもしていない  
アラカンの私達のこの無謀な計画は、実行される事になりました。

21年7月上高地→徳沢→蝶ヶ岳。12名の参加です。

徳沢から蝶ヶ岳は生憎の雨でしたが、翌朝のご来光の素晴らしかったこと。気を良くした私達は、翌年は燕岳に登る  
事、トレーニングに励む事を決めて解散しました。

22年9月中房温泉→燕岳。8名参加。

喉元過ぎれば…でほとんどトレーニングせずの尾根登りは大変でしたが、夕日の綺麗さに感激し又々翌年の山行き  
を決めてしまいました。

今年は9月に西穂高に行きます。最多の13名の予定。

学生時代のハードな合宿のような達成感はありませんが、気の合ったそして穏和な中年になった仲間と共に行く山  
は楽しいですよ～。皆元気で、少しでも長く同期登山ができるように願っています。

2009年7月 蝶ヶ岳



2010年9月 燕山荘にて



## 第3章

### 現役活動報告

#### 1 執行部近況報告

本部 第51期主将 馬屋原範聡

初めまして、現在主将を務めさせていただいております農学部3年生3年の馬屋原範聡と申します。では、さっそく新入部員の獲得状況を報告いたします。

なんと、今年は大漁であります。

オッチェン13名（内、経済学部2名、教育学部2名、農学部1名、工学部8名）と、メッチェン3名（内、人文学部1名、工学部2名）が入部いたしました。

今年は何年にもないほどの大人数を獲得でき、特に人数不足に悩んでいた工学部がオッチェンとメッチェン合わせて10名と渡りに船といった具合です。

正直、今年に限りなぜこんなにも多くの新入部員が獲得できたのか、何度考えても答えは出ません。例年と同じように新入生歓迎フェスティバルで(強引に)ブースまで引っ張っていき、そこで山の楽しみと写真を見せ、もちろんつらい部分など見せずにアピールし、茶話会ではおしゃべりしつつ山の楽しみをアピールしつつ、食事に行く…例年の、自分が知る限りの勧誘と何ら変わりはありません。それなのに、まさに今年に限ってといった感じです。もしかしたら、今年新入生が入らなければ工学部がなくなってしまうという危機感からくる何かが勧誘に参加した部員のあと一歩の後押しをしていたのかもしれない。また、近年の山ブームがやっとワンゲルにも恩恵をもたらしてくれた尾かもしれません。やっと時代がワンゲルに追いつきました。それでもしかし、近年大変な苦勞をしていた先輩方に申し訳ないです。ですが、きっと皆さんも喜んでいただいていると思います。

現在は上回生が6名に対して1年生がおおよそ3倍の16名となかなか運営がきついという部分もあります。特にご飯に一度でも行こうものなら財布が偉く軽くなって帰宅することになります。新入生がたくさんでうれしいのか、悲しいのか…いえ、うれしいですね!!それだけならまだしも、山の経験者が少数であるのに対して未経験者が多数という現状は非常に危険だと思いますので、今まで以上に新入生の訓練、上回生の指導を厳しくしていかなくてはならないと感じている今日この頃であります。

また、5月に開催された県内合同ワンデリングでは近年参加者の少なかった1年生が5名も参加してくれて例年以上に盛り上がりを見せてくれました。しかも一部は入部前で参加してくれました。県合は少しお祭り色の強いイベントですが彼らはきっと十二分にワンゲルの魅力を感じてくれたものと思います。これからはワンゲルの厳しい面とも向き合っていくなくてはならないと思いますが、自分たち上回生がしっかりとサポートをして来年はもっとにぎやかな部活となるよう頑張っていきたいと思っております。

そういった点以外にも今後は人数が増えたことで勝手が違う部分もありますが、これから夏合宿に向けてPWや練成、夏合宿をしっかりと行っていきますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

## 2 執行部近況報告

工学部 第49期主将 清水彬行

前年度に引き続き、第49期の主将を務めさせていただいております、理工学研究科環境共生系専攻1年の清水彬行です。去年、部員が入らなかったため、僕が主将をやっています。

工学部は現在、大学院1年1名で活動しています。研究、授業が忙しいため、トレーニングの時間がなかなか取れない状況が続いています。なので、できるだけ時間を見つけて定期的にトレーニングをやっています。1人でトレーニングをしているので、練習メニューは限られてしまっていますが、最近は筋トレをメインに練習を行っています。ロッククライミングも去年と同じく練習をしています。筋力だけでなく、バランス感覚も鍛えることが出来るので、とてもいいトレーニングだと思います。

今年も新入生獲得のために本学で勧誘活動を行いました。今年は工学部に10人も新入生を入部させることができました。何年も工学部に部員が入部していなかったのもとても嬉しいです。この結果は山口県立大学の皆さんや本学OBの清水和也先輩のご助力も大きかったと思います。これからは上級生を中心にして、合宿などで新入生に部活を楽しんでもらうよう頑張りたいです。来年も工学部に多くの新入生を入部させることができたらいいと思います。

僕は部活を引退した身ではありますが、部活の行事には出来るだけ参加できたらしたいと思います。今のところ、中国四国合同ワンデリング、OB総会には参加する予定です。

## 3 春合宿結果報告

主将 馬屋原範聡(農B3)

内容：サバイバル

活動地域：屋久島

PL 馬屋原範聡(2年)

このたび、春合宿のPLを務めさせていただきました、農学部・生物機能科学科3年の馬屋原範聡です。昨年度の春合宿は3月23日から26日にかけて屋久島の安房港周辺で行いました。当初は屋久島の宮之浦岳の登山を計画していたのですが、積雪が高い所で1m以上あるということと、P-menが私を除き皆1年であったので急遽サバイバルに変更いたしました。

AP(8月23・24日)

先輩方や山口県立大学のワンダーフォーゲル部の方々に差し入れを来ていただき、パーティー人数以上の見送りの中、鹿児島駅まで電車でお出しました。鹿児島駅到着後は、桜島フェリーターミナルで一夜を明かしました。途中、警備や他の滞在者の方にアドバイスをもらいながら、パーティー5人中2人がメッチェンだったこともあり、交代で起きて見張りを行いました。翌24日は10:20発安房港行き的高速艇トッピーで約2時間半かけて屋久島に到着しました。

## 1 日目

### 番屋峯キャンプ場

キャンプ場に到着後、まず手続きを行った後幕営を行いました。野草班と貝班に手分けをして、まずはタエッセンの食料を確保しました。野草は一部下処理を行いから揚げ粉をまぶして、唐揚げを作りました。貝は味噌を持って行ったので、野草と一緒に味噌汁を作りました。エッセン終了後は、夜釣りのために早めに就寝を行いました。しかし、安房港は風が強く、気温も低く、安全面と体力を考えて一旦テントへ戻り早朝から釣りに変更しました。

## 2 日目

### 番屋峯キャンプ場

5時半に起床後、安房港で釣りを行いました。今後私たちが最も釣り上げる「ミギマキ」という阪神タイガースのような黄色と黒の縞模様をした魚と出会ったのはこの時でした。1人1匹程度釣った魚を下処理後唐揚げにして、前日の残りの野草と一緒に朝エッセンをとりました。その後また釣りに行き、釣れた魚を半分昼エッセンにしました。タエッセンまでは体力保持のためにテントで休憩しながら、交代で貝をとったり、野草をとったりしました。タエッセンは残りの魚と野草・貝で済ませて、就寝しました。

## 3 日目

### 番屋峯キャンプ場

最終日の朝は少し早目の4:30分に起床して、全員で釣りをしました。全員釣りのコツをつかんでいたため、一人3匹程度は釣れるようになっていました。この時つれていた魚は15cmから大きくても20cmの「ミギマキ」がほとんどでした。9時を過ぎたころから徐々に魚のあたりの間隔が大きくなり、9:30で釣りが終了だったので、皆リラックスして最後の釣りを楽しんでいました。ただ、一番の経験者であった1年生がここまであまり魚を釣り上げておらず、多少焦っていました。そんな中、彼の竿に強い引きがあり釣り上げてみると体長40cmはあるカワハギのような魚を釣り上げました。これには一同驚き、また残りの30分間まで全力で釣りを行いました。結果的に、一人4匹弱分は釣り上げることができました。テントに帰ってからは、休憩、昼エッセン、野草取りと行い、最後のタエッセンで大量の魚を唐揚げだけでなくみそ漬や塩焼きにさせていただきました。ワンデリング中に出た燃えるごみと周辺で拾った流木でかまどをキャンプファイヤーのようにして、P-men 同士で色々合宿中の話などをした後、21時に就寝しました。

今回の春合宿は大変有意義なものになったと考えています。まず、屋久島は1年で370日雨が降ると言われるほど雨の多い島ですが、私たちがいる港周辺では小雨が降った程度で、むしろ日光による体力の消費を抑えることができました。また、鹿児島・沖縄の島の中ではあまり魚が釣れないと言われていた屋久島で十分なエッセンが行えるほどの魚が釣れたこともあり、本当に自然に恵まれたものでした。さらに、最初に申しあげたように P-men は私以外1年生であったので、体力的には問題がないのですが、やはり当初の計画では経験の少なさは問題であったと考えています。計画の変更により P-men に同士が互いのことを考える余裕と時間が生まれ、今後の活動のためにはいい機会になったのではないかと考えています。私個人といたしましても、PL として準備段階から責任ある立場を務める中でいくつか選択を迫られる場面がありました。そんな中、後輩に指示する際には日頃以上に言葉や分担に気を遣いつつ、自分に自信を持つことの大切さを身にしみて感じることもできました。

## 4 夏合宿

責任者 浦島遼平(理 B2)

このたび、夏合宿の PL を務めさせていただきます理学部、地球圏システム科学科、2 回生の浦島遼平です。今年は本学のみでの夏合宿となりますが、新入部員が多く入部したので A・B・C の 3 つのグループに分け、それぞれ違う場所にて合宿を行う予定です。いずれも北アルプスでの合宿ですが、A グループは中房温泉から燕岳、大天井岳、常念岳の縦走で 3 泊 4 日、B・C グループは雷鳥沢から立山、奥大日岳などのピストン登山で 3 泊 4 日を予定しています。理由としては、登山初心者の多い中、危険が少なく且つ北アルプスの雄大な自然を堪能できるような場所だと考えたからです。自分は PL としての経験がまだまだ浅いので、全員を統括できるかという不安な面もありますが、メンバーを信頼し互いに助け合うことを目標として頑張っていこうと考えています。そして、無事故で無理なく全員が楽しかったと思えるような夏合宿になることを目指して取り組んでいきます。

## 5 アフター紹介

責任者 田中宏美(農 B2)

今回のアフターの PL を務めさせていただきます田中と申します。今回のアフターは六甲山から摩耶山にかけての縦走です。今年は部員の人数が多く、この人数で山を登ることへの不安を感じていました。しかし、この人数だからこそ一つにまとまることの必要性を強く感じ、また、よりいっそう仲間の絆を深めたいとも感じていました。そこで、三つのパーティーが合流して登ることができる地点にある山だという点、山頂や周辺に楽しめる風景や施設が多様にあるといった点からこの山を選びました。

1 日目はまず阪急芦屋川駅より高座ノ滝、雨ヶ峠を經由して六甲山地の最高峰である六甲山山頂を目指します。その後車道と平行して走る縦走路を摩耶山方面へ歩きます。そして、神戸市立自然の家にて一泊します。2 日目は摩耶山に登ります。その後来た道を引き返し、生田川に沿って走る登山道を歩き、布引貯水池を經由してゴールの新神戸駅へと到着します。

厳しい夏合宿を乗り切った仲間と、もう一つ良い思い出をつくれるといいと思います。

## 第4章

### その他

#### 1 Y.U.W.V.ホームページ

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。OB 通信(カラー版)も掲載しているので是非ご覧ください。

Y.U.W.V.ホームページ

<http://wwb.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

#### 2 編集後記

編集 菊池武臣

初めまして、今年度より事務局長を務めさせていただいております菊池武臣と申します。正直思っていたよりやる事がとても多く非常にしんどかったです。私事ですが、6月に教育実習に行っていました。自分は母校での教育実習だったのですが、いやはや何とも自分の後輩ということもありますが非常にかわいい生意気な最高の生徒でした。教育実習はすごく大変だとおっしゃる方がいますが、僕はそんなことはなかったと思います。指導教官や受け持つクラスによって変わってくると思いますが自分の場合そこに非常に恵まれていたと思います。教育実習が終わってからというもの7月初めに教員採用試験、半ばには初めての中間発表、8月の初めには大学院入試と教員採用試験2次選考の書類提出など今まで見たこともないくらいに試験やら研究が重なってしまいました。そこに、ワンゲルのOB通信やその他のこと。正直無理だと思いました。しかし、皆さんがこれを読んでいるということは、自分は何とか乗り越えたということでしょう。それもこれもOB会会長の山本さんを始め、田村さん、古谷さん、池富士さん、清水さんの協力があったからだと思います。本当にありがとうございます。

さて、近況報告で書いてあった通りに今年は新入部員がここ数年では比較にならないほど大漁でした。しかも、待望の工学部の部員を大量ゲットです。今年が最後のチャンスといっても過言ではない年でしたので奇跡とでも言いましょうか。本当に良かったです。これで工学部にも活気が戻ると思います。自分はというと、たまに顔を出したり、イベントの際に少し参加したりするといった程度なのですが、やはり人数が多いというのはいいものです。山に登るといことは社会人になってしまっただけでは少し難しいのではないかと自分は思います。大学生のうちに、時間があるうちに、やりたいことを思うままできる今だからこそ彼らには山の自然の素晴らしさを知ってもらいたいと思います。自分たち現役が自主性を持ってやり遂げるといのが一番いいとは思いますが、それでもやはり限界があるかもしれません。現役とOBと一緒に活動できる。そのような発展の仕方をしていけばよいのではないかと感じました。これからも現役一同一生懸命活動してまいります。OBの方々には迷惑もかけるかもしれませんがご協力のほどよろしく申し上げます。